

## 授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

留学プログラム名	派遣交換留学		
所属(本学)	理学部地球惑星科学科		
現在の学年	学部4年		
留学先国	スウェーデン	留学先大学	リンシェーピン大学
留学期間	2015年8月28日～2016年1月16日		

### ① 大学の概略

スウェーデン・リンシェーピンに位置する総合大学。リンシェーピン中央駅へはストックホルムよりバス・電車でアクセスができ、所要時間は2～3時間程度。中央駅より、町のバスで約25分の距離にメインキャンパスは位置する。

学科は4つある: Arts and Sciences, Educational Sciences, Medicine and Health Sciences, Science and Engineering。東工大からは Science and Engineering のコースへ申し込むことが多いが、他学科の授業も相談しだいで履修可能。学部生向けの授業でも、英語で開講されているものがあるが、授業の種類は多くなく、レベルも高くない。

参考: <http://liu.se/utbildning/exchange-students/institute-of-technology?l=en>

留学生は、東アジアとユーロ圏が主である。日本からの留学生も少なくなく、秋田から鹿児島まで、さまざまな大学からの留学生が40人程度在籍していた。

### ② 留学前

#### 単位・留年などについての準備

とくになし。学科で3年の必修科目がなく、単位数も4年生に上げられる見通しが立ったので、3年後期を利用して留学した。学士論文研究の内容には、直接的には関連していないため、帰国してから研究室に所属し、研究テーマを考えた。留学先で取得した単位の読み替えについては、あらかじめ学科長に相談をしていたため、帰国後の手続きもスムーズだった。

#### 語学についての準備

一年次から、学内の英語の授業、国際交流イベント、短期留学プログラムへの参加、海外学生へのキャンパスツアーなどを通し、英語でコミュニケーションが取れるレベルに引き上げていたため、留学のために特別に対策をすることはなかった。学びたい分野の語彙などには不安があったので、関連分野のTEDや専門誌を探し、空いた時間に聞いたり読んだりしていた。スウェーデン語は、必要ないと聞いていた(9割が英語話者のため)ので、準備もせず、現地でも勉強はしなかった。

#### 情報の入手についての準備

一年次から所属していた国際交流サークルの先輩などから、貪欲に留学経験者ネットワークを築いていた。特に留学先の大学からきている学生を探し、事前に大学の情報や現地の友達を紹介してもらうこともした。また、同年度に同プログラムで留学する人たちのコミュニティを作成し、個人的に飲み会を開いたり、グループに質問を投げたりなどして、モチベーションを高めあったり情報を交換したりした。

#### ビザの準備について

申し込みの仕方や期日、用意すべき書類は調べていたが、あまり事前に準備はしなかった。渡航後、近くの移民局に行き、直接的に手続きを踏んだが、いくらか時間がかかった。事前にしっかり準備をすることもっと早く済むはずなので、これから留学される方は事前にできることは全てしておくことをお勧めする。

## 住居の準備について

留学先の大学から推薦がきたため、特に準備の必要はなかった。費用は、月に 3000SEK (当時レートで 45,000 円程度)、ワンルームでバストイレ付だった。コリドーマイト(ひとつの廊下に8つの部屋が並んでいるので、フラットメイトではなく、こう呼んでいた)にも恵まれ、多国籍な環境に囲まれていた。週に一度、決まって近くのお店でお酒を飲んだりダーツをしたりすることで、スウェーデン人のネットワークも広がった。

## お金の準備

トビタテ！留学 JAPAN から奨学金を得た。航空券代全額に加え、月に生活費として 16 万円の支給があったので、支給開始までの間にお金が足りなくなることはあったが、経済面ではあまり困らなかった。また、「航空券は日本との往復でなくてはならない」といったような余計な縛りもなかったため、前後に違う留学プログラムや途上国でのボランティアを行うこともできた。

## そのほかの準備

- ・ 海外旅行保険は、学内の出張サービスを使用し、円滑に手続きを行った。指定されたサービスは割安であると聞いているが、それでもかなり高値になるため、注意が必要。
- ・ 予防接種は強制ではなかったように思うが、現地で受けようと思うと高値になるため、日本で済ませていく方が無難である。
- ・ 冬の時期に行くことになっていたため、友人に分厚い冬服をもらったり、カイロなどをスーツケースに入れて持っていったりした。実際に、現地の冬の期間には重宝した。

## ③ 留学中

### 授業について

英語の授業を含めていくつか興味のあるものを履修した。大学に留学届けを出す時点で、履修する授業を仮決めしておかなければならなかったため、4月には決まっていたが、渡航後に友人と話す中で、キャンセルをしたり、追加で履修したりした。授業のスタイルは日本と異なり参加型(ゼミ形式、グループワーク形式、発表形式など)が多く、課題は多かったものの新鮮でとても楽しかった。また、一週間に2~3回行く必要がある授業がほとんどであるため、短期間でも多くのことを学ぶことができたように思う。

#### \* 履修登録した科目 \*

Intercultural Communication

Communication in English for Exchange Students

Globalisation and Global Justice

授業への参加率、貢献率は高かったと自負しているが、やはり英語のライティングとなるとユーロ圏からの留学生には敵わなかった。ゼミ形式の授業も、きちんと準備して臨むことで、議論の蚊帳の外になることなく参加することができた。

## ④ 課外活動について

「EAA」という東アジアの文化交流サークルがあったので、参加した。日本に限らず、中国本土、台湾、香港、韓国から来ている学生と、それに興味のあるスウェーデン人学生や他国留学生が週に二度集まり、FIKA をしながら言語交流・文化交流を行った。

「UF Linköping」という、講義サークルにも参加した。月に2~3回ほど、知識人をキャンパスに招聘して学生主催の講義を行っていた。トピックは多岐にわたり、移民問題、国際法、ジェンダー論、テクノロジーと倫理、ワークライフバランスなどを受けた記憶がある。

旅行は、ノルウェー、デンマーク、イタリア、スウェーデン北部、フィンランドなどに行った。日本人留学生との旅行が多かった。オフシーズンであれば航空券も高くなく、加えてシェンゲン協定の国であればパスポートを提示する必要もないので、気軽に旅行に行くことができた。具体的には、フィヨルドツアーに参加したり、ミラノ万博に参加したり、オーロラを見に行ったりした。

冬は日が昇っている時間が短かったため、同じ寮の友達とジムに行ったりサウナを利用したり、外食をしたりすることで、うつ状態になることを回避する努力を怠らなかった。

上で少し触れたが、留学の前にはアメリカで短期留学プログラムに参加(滞在は一ヶ月)、留学の後にはインドネシアでボランティアとして大学で教鞭をとった(滞在は二ヶ月)。どちらも貴重な体験になったばかりでなく、今後に繋がるネットワークを構築して帰国することができたのが、成果として大きかった。

## ⑤ 語学について

英語で書かなくてはならないレポートや、中央アジアの訛りの方と話す際には若干苦勞をしたが、それ以外は特に問題がなかった。スウェーデンは特に、ネイティブスピーカーと同等レベルで英語が通じるため、自分の英語の能力が低くても、コミュニケーションに困ることはなかったように感じる。TOEFL iBT のスコアは 63 程度しかもっていなかったが、国内の国際交流の経験を通じてコミュニケーション能力を育てていたため、苦勞したことも多くはなかった。英語の力の変化に関してはあまり自分では実感していないが、ドイツ人の留学生が多かったこともあってか、「少し発音がドイツ寄りになったね」と時々言われることがある。

## ⑥ 自分自身の成長について

多様な授業を取ったことで、物事を考える手段としていくつかの新たな視点を得たことが、一番の成長だったと考えている。

ひとつは、異文化間コミュニケーション。自分とは大きく異なる文化的背景を持った人とコミュニケーションをとる際、「異文化理解」は大切な要素の一つである。が、実際その差異というのは実態がつかめないものだ。どんな視点から見るとどれくらい離れているのか、判断する指標を持っていないから、というのが一つの理由だ。いくつかのフレームワークを用いて国単位で比較し、議論や発表をする授業だった。これを通じ、異なる文化的背景をもつ方と接する際には、どういう点で異なってどういう点で似通っているのか、きちんと細かく見るようになった。

もう一つは、政治哲学。ジョン・ロールズの正義論をベースに、様々な批判や支持(主にジリアン・ブロックの Global Justice でゼミをした)を戦わせた。足を踏み入れたての自分にとっては週 1~2 回のゼミ準備で精いっぱいだったが、国際問題に対して先進国はどんな責任があり、後進国はどんな権利があるのか、今までなんとなく考えていたことの根本を、学術的に深めるきっかけとなった。

## ⑦ 留学先で困ったこと

留学を始めて 2 ヶ月ほど経つと、留学鬱になると聞いていた。実際に自分も 2 ヶ月ほど経つと、想像よりもあまりパツとしないと感じるようになり、不満足感を抱えていた。漠然と不満を抱えていたが、このままではダメだと思い立ち、徹底的に何が不満なのかを分析した。その結果、いくつかの不満や、理想とのギャップを明文化して整理することができ、対策を考え、実施した。その後の留學生活の質は向上し、帰国まで勉強へのモチベーションを保つことができた。

## ⑧ 留学を希望する後輩へアドバイス

幸運なことに、留学フェアや留学報告会をはじめ、東工大には留学に関連するイベントがいくつかあるので、知り合いに留学を体験した人がいなくてもそのような場でリーチすることができます。また、グローバル人材育成推進支援室のウェブサイトや、東工大国際部のウェブサイトには、たくさんの留学体験談が載っていますし、南 6 号館の留学情報館に行けば職員の方に気軽に何でも相談することもできます。不安でもとりあえず申し込んでみましょう！と謳う先輩もいますが、私のように心配事をできるだけ潰してから検討したい慎重派の方にも、留学の門戸は開いています。

どんなきっかけでも良いので、少しでも興味があれば、一度ザックリと調べてみることをお勧めします。行くのをやめてしまうのに十分な小さな不安は、もしかしたら簡単に解消することができるかもしれません。すてきな留學生活を！